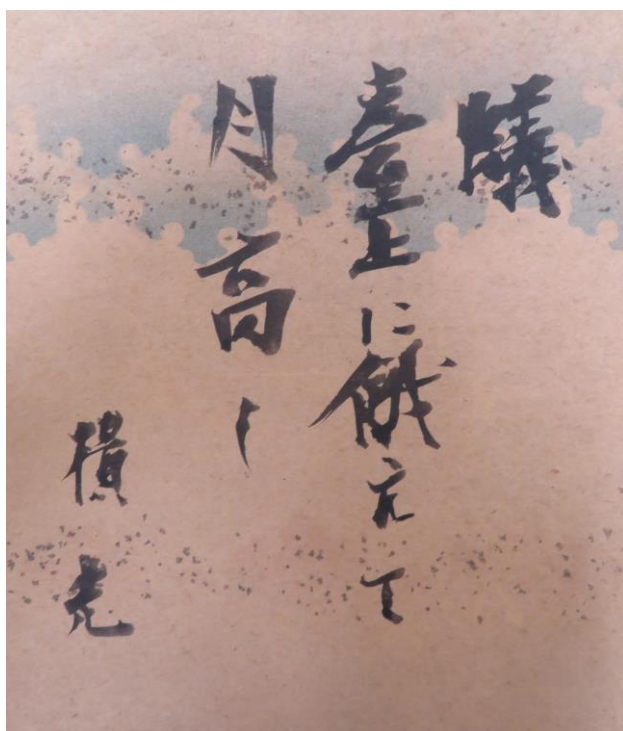


第25回 大分県民芸術文化祭参加行事

# 第25回 横光利一俳句大会

## ～入賞作品集～



色紙「蟻臺上に餓えて月高し 横光」（宇佐市所蔵）

表彰式：令和5年12月9日（土）14:00～15:30

宇佐市民図書館 視聴覚ホール

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾  
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局  
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

## ごあいさつ

横光利一生涯100年を記念してスタートした「横光利一俳句大会」も今回で25回目を迎えることができました。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、規模を縮小しての表彰式となりましたが、今年から再び制限なしの本来の姿で開催できることを喜んでおります。

さて、今年の応募総数は6991句、一般の部が1703句、中学生以下の部が5288句、応募人数は2467人で、一般応募が363人、中学生以下が2104人でした。団体応募は県内外の小・中・高等学校計42校から5540句に及ぶ作品をいただきました。

応募総数、応募人数、団体応募すべてにわたり、全国から昨年並みのご応募数をいただいたほか、とりわけ、昨年を上回る市内外の学校からたくさんのご応募をいただきましたことは、誠にうれしいことでもあります。

全国各地から応募してくださったみなさん、学校単位、クラス単位で取り組んでくださる児童・生徒のみなさん、指導してくださる先生方のご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

入賞句の選考につきましては、例年同様、写真家の浅井慎平先生と俳人の野中亮介先生にお願いをいたしました。両先生におかれましては、お忙しい中、毎年たくさんのお応募の選考をしてくださり、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。

終わりに、みなさまのご多幸と、さらなるご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き、本大会へのご支援をお願い申し上げます。

令和5年12月9日

宇佐市長 是永 修治

## 第二十五回

### 「横光利一俳句大会」表彰式

## 式次第

- 一、開会
  - 一、主催者あいさつ
  - 一、表彰状授与（特選・秀作・当日句）
  - 一、受賞のことば（入賞者代表）
  - 一、講評 野中亮介氏（選者）
  - 一、閉会
- ※閉会后、記念写真撮影

#### ■選者■

**浅井慎平氏** 昭和 12 年、愛知県生まれ。写真家・俳人。句集に『二十世紀最終汽笛』、『あれから何処へ』などがある。平成 27 年、西東三鬼賞（最優秀）受賞。

**野中亮介氏** 昭和 33 年、福岡県生まれ。俳人。俳人協会理事。俳誌『花鶏』（あと）主宰。令和 3 年、句集『つむぎうた』で第 60 回俳人協会賞受賞。

## 横 光 利 一 *Riichi Yokomitsu* (1898~1947)

宇佐出身の父・横光梅次郎と伊賀（現・三重県伊賀市）出身の母・こぎくとのあいだに、父の仕事先であった福島県で生まれた（利一の本籍は生涯宇佐にあった）。

菊池寛に認められ、川端康成を紹介されて親友となる。新感覚派文学のリーダーとして、昭和初期からめざましい活躍をし、昭和十年代には「文学の神様」と称された。

代表作に「日輪」、「上海」、「機械」などがある。また、半生をかけて書き続けた未完の大作「旅愁」の後半に主人公が故郷の九州を訪ねる場面があり、そこには宇佐の自然や人々とのふれあいが描かれている。

友人・知人に俳人が多く、自らも熱心に句作をし、小説の中にも盛り込んだ。また、句会「十日会」を主宰し、俳人の水原秋桜子や石田波郷らが参加したほか、門人の石塚友二や清水基吉は、小説家のかたわら俳人としても活躍した。

1998年に生誕百年を迎え、伊賀市（三重）、世田谷区（東京）、宇佐市、鶴岡市（山形）など、全国のゆかりの地であいついで記念事業が行われ、以来、各地の交流が続けられている。「横光利一俳句大会」も、宇佐市の生誕百年記念事業の一環として始められ、生誕120年目にあたる2018年の表彰式は、「国民文化祭おおいた2018」の分野別事業として、規模を拡大して実施した。

第二十五回 横光利一俳句大会 入賞作品

【一般の部・特選】 九句

横光利一俳句賞

聖五月グラスの底の光の輪

上尾ヤス子 大分市

大分県知事賞

アトリエに兄の絵いまも敗戦日

岡 汀子 三木町(香川)

宇佐市長賞

秋天は大きテーブル卓布干す

出田量子 長崎市

宇佐市教育長賞

風花や教室といふ宝箱

金澤諒和 大分市

大分県北部振興局長賞

武器作る母は十六広島忌

税田百余 大牟田市

宇佐市民図書館協議会長賞

邯鄲や小さき鍵もて開くる家

桑野英子 福岡市

豊の国宇佐市塾賞

草笛や一兵卒でありし父

高野ちか子 大分市

浅井慎平選者賞

歪みたるダリの時計や原爆忌

豊東美智子 大分市

野中亮介選者賞

風花や相手のいない糸でんわ

平田素子 福岡市

【中学生以下の部・特選】

十句

横光利一俳句賞

絵日記に打ち上げ花火残しけり

後藤陽菜 はるな

天津小六年

大分県知事賞

草笛の音が鳴りひびく沖縄忌

吉良一優 かずまさ

大在小五年(大分市)

宇佐市長賞

シャボン玉遠いとこまで会いに行く

吉松美羽 みう

日出中三年(日出町)

宇佐市議会議長賞

夏休み半分すぎて終戦日

佐藤誉仁 よしのり

大在小五年(大分市)

宇佐市教育長賞

若鷹が夏に去り逝く特攻機

岩永彩生 さき

高田中三年(豊後高田市)

大分県北部振興局長賞

お墓参り入道雲に見守られ

利光絢華 あやか

朝日中三年(別府市)

宇佐市民図書館協議会長賞

この秋は貴人のために紅をさす

金子春陽 うらち

朝日中三年(別府市)

豊の国宇佐市塾賞

広島が真っ赤にそまった夏の空

永松絢香 あやか

八幡小五年

浅井愼平選者賞

しゃきしゃきとかんでだいすきあまいなし

大和悠弦 やまと ゆづる

深見小一年

野中亮介選者賞

太鼓の音人が輪になり踊る夏

井本健心 けんしん

北部中三年

【一般の部・秀作】四十九句

卒業や昭和の母の黒羽織	天野眞由美	福岡市	国東の仏の加護や稻の花	押谷 隆	別府市
竹春のいづれ遺品となる手紙	有宗眞弓	別府市	打水や博多芸妓の名入り下駄	小野智輔	大分市
田に埋まる大き鳥居や威銃	石井明美	津久見市	でで虫にゆつたり暮らす術を聞く	勝浦弘子	大分市
妹によく似し首根白日傘	井手久美子	北九州市	ドロップの味がしましたけふの虹	金富真帆呂	大分市
さやけしや旅先で買ふ絵蠟燭	井上寿子	直方市	夏帽子離れし母の匂ひかな	神田友恵	津久見市
絵日記の朝顔ひらくまで緻密	岩波千代美	大分市	自転車を担ぐ少年天高し	是澤勝行	津久見市
一画一点蛙の目借りどき	岩橋玲子	久留米市	底紅や血筋正しき蔵の紋	佐藤佳津	津久見市
木槿垣働く靴を洗ひけり	植田桂子	高松市	地吹雪や死神の息にあらがへり	清水利章	札幌市
真清水を飲み霊山に入る覚悟	延寿寺富美	北九州市	身に入むや百年を生き子を待てり	首藤加代	大分市
指先に月光からめ髪を結ふ	岡野百々	大分市	縁故とはありてなきごと夏燕	高柳和弘	大分市
帰省子の真っ先に行く犬の墓	奥野律子	宇佐市	借本に開き癖あり夏の風	田嶋恵子	大分市
ステーキの低温調理谷崎忌	尾崎加代	志免町(福岡)	麦踏んで踏んで村人小さく老ゆ	立花眞由美	豊後高田市

空の色あの日と同じ夾竹桃	霧田紀子	宇佐市	虫の音の一抜け二抜け夜の更けり	平田はつみ	杵築市
背の順に並ぶ縁側ソーダ水	徳永啓子	福岡市	明易や胎児腹蹴り名を待てり	藤井彰二	福山市
黒川能の里の静けさ稲穂波	利國春美	高松市	たたかひの形に蠅螂生まれけり	藤原弘美	北九州市
増水の名残を風に鶺鴒舟	戸恒東人	川崎市	妻の忌の五年寝かせた梅酒かな	淵野陽鳥	大分市
楊貴妃てふ緋めだかを飼ひ女棲む	富尾和恵	大分市	下校児の傘の先なる蛇の衣	松岡由美	添田町(福岡)
働いて履きつぶす靴雲の峰	友成聖子	北九州市	露けしや丘の果てまで続く馬柵	緑川啓子	宇都宮市
春の駒昨日よりやや遠くまで	中川和美	宇治市	陣笠の鬨の声あぐ梅雨茸	村上君代	大分市
再会はうなづきて足る合歓は実に	並川友子	長崎市	かなかなや考と選びし庭の木々	矢幡秀子	筑紫野市
フレイルの子も混りゐて野に遊ぶ	南光翠峰	河内長野市	新涼や日本列島少し伸び	吉本栄子	津久見市
開店を待ちし床屋や刈田道	花田睦生	北九州市	強風の小枝にしがみつきし蟬	米満幹子	鹿屋市
子蠅螂すでに闘士の影をもつ	羽野泰子	大分市	万緑や砂場に小さき八面山	米持知子	宇佐市
地下蔵の戦禍逃れしひな人形	馬場美江	別府市	容赦なく西日わが文芸部室	鷺津誠次	可見市
カウンターのの上に夜店の林檎置く	久田浩一郎	長崎市			

【中学生以下の部（小学生以下）・秀作】二十三句

田んぼの色緑黄色に変わっていく 安倍柚希<sup>ゆずき</sup> 佐田小六年

滝つぼにしたたり落ちる滝の音 池田悠真<sup>ゆうま</sup> 大在小四年（大分市）

夏祭り屋台の前で花火見る 宇留嶋 萌<sup>もえ</sup> 安心院小六年

先生が少し太った夏休み 太田美結<sup>みゆ</sup> 大在小五年（大分市）

夏休み花火で光る友の顔 大塚瑠美 直入小五年（竹田市）

おきたてにそ父母のおきよう夏休み 大屋舗実乃里<sup>おおよしきみのり</sup> 南院内小三年

たいふうがくるかこないかニュースみる 鹿嶋 縫<sup>ぬい</sup> 封戸小一年

赤とんぼおじぞう様の手に止まる キム花夏<sup>はな</sup> 豊川小六年

ばあちゃんとなずないっぱいさんぽ道 古寺愛架<sup>まなか</sup> 高家小三年

カプトムシ太陽めざして木を登る 小松 姫 八幡小六年

夏休み原爆ドームぼろぼろだ 米谷紘翔<sup>ひろと</sup> 四日市北小五年

朝顔は朝一番に目覚めたり 坂本華乃音<sup>かのん</sup> 宇佐小六年

夏祭り今年はかつぐよみこし隊 末宗侑佳<sup>ゆうか</sup> 北馬城小五年

はじめてのきょうとのたびはあついな 副島悠生<sup>ゆうせい</sup> 柳ヶ浦小二年

トマトはね上から下に赤くなる 長岡琴音<sup>ことね</sup> 高家小三年

ひばく者の伝える涙夏の午後 中園こころ 四日市南小四年

合わさったかえるの歌と雨の歌 野崎胡実<sup>くるみ</sup> 敷戸小六年（大分市）

ひまわりが見上げる空は晴れわたり 樋口蓮人<sup>れんと</sup> 長峰小三年

春の朝さくらがまつて新学期 帆足昂太 戸次小五年（大分市）

かあさんがかみなりおとす夏休み 桃田清士朗 院内北部小三年

火の花が空にちるちる夏の夜 山口ほのか 佐田小三年

田植えの日あしがぬけずどろだらけ 和田瞳子<sup>とうこ</sup> 西馬城小五年

せんぷうきみんながそばで立ち止まる 渡邊綾音 駅館小五年



【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十五句

雨の中共に目立つは紫陽花か 秋吉小春 大分中三年（大分市）

真つ黒な先輩の楽譜夏の空 安倍向夏こなつ 西部中二年

自転車でくだる坂道夏空の下 池田小遙 駅川中一年

赤蜻蛉もうすぐ秋が来る印 岩里亜緒彩あおい 朝日中三年（別府市）

炎天でみんなで追ったあの白球 大久保瑛人えいと 駅川中三年

夏祭り一緒に歩いて結ばれる 魚返響介 北部中二年

夏祭幼き心思い出す 折山珠理じゆり 日出中三年（日出町）

夏がきた入道雲が競い合い 河野恵利 宇佐中二年

蚊遣火に腕かきながら火をつける 小池将人 本耶馬溪中三年（中津市）

見上げると唯一知ったオリオン座 佐藤穂乃花 日出中三年（日出町）

楽しみは色あざやかなかき氷 末貞 樹てい 宇佐中一年

墓参り影ない人間横通る 末廣來優こう 高田中三年（豊後高田市）

夕立と共に流れるこの想い 末松明紗めいさ 駅川中二年

せみさえもうぐけなくなる木影から 都留康平 宇佐中三年

暑い夏汗握る手に夢いっぱい 寺越利生りいき 駅川中一年

ひとくちめ甘く広がるソーダと笑顔 引田桃子 竹中中三年（大分市）

夏休みずっとまっていた物語 日高想來そら 駅川中一年

入道雲手に汗にぎるホームラン 光本真龍なみたつ 北部中三年

初夏の風水面に映る金閣寺 持地璃央りお 安岐中三年（国東市）

炎天の庭球打つ音鳴り響く 森 久織旗くしき 宇佐中三年

車窓からひまわり畑あふれる夏 森木桃花 千歳中三年（豊後大野市）

濃い虹に気分も晴れる雨あがり 矢内京成けいせい 東中三年（臼杵市）

夕立が早く帰れと私をせかす 幸 三逢みお 朝日中三年（別府市）

風鈴の涼む音さえ懐かしく 吉田美玖 駅川中三年

白い雪つもって溶けて道となる 力徳みずき 院内中三年

【一般の部・佳作】百五十句

青春を語り明かせし儼の寮	相川正敏	佐世保市	新盆や子の手助けに支へられ	岩本文子	津久見市
波乗りや水の地球をひとりじめ	赤尾美津江	太田市	人体模型眠らせて夜の薔薇	植田也風	文京区
伸びること枯れることなく聖樹かな	安藝達也	鳴門市	手を挙げて止むる村バス合歓の花	白木すなえ	上毛町(福岡)
白靴や過去を吹つ切る一人旅	荒井浩子	知立市(愛知)	散紅葉雨の中なるワイナリー	遠入美津子	中津市
古びたる介護日記や秋ともし	有川絹江	西海市	葉鶏頭昭和名残のつるべ井戸	大北広海	東大阪市
カンナ燃ゆ欲しき詩心恋心	池田すみ子	福岡市	老優の科白一行寒昂	太田通子	太田市
寄鍋や母の小鬢に遊ぶ白	石川 毅	大津市	母許へ釣瓶落しの坂急ぐ	岡嶋 明	宇佐市
長靴の農高野球部雪を搔く	石川 昇	世田谷区	鯛焼きの餡に舌焼く夜寒かな	尾形康子	上毛町(福岡)
並走の馬の調教風光る	石橋康徳	府中町(広島)	月明の窓に並びし試験管	岡本廣子	久留米市
掌を翳す猫背の焚火かな	伊勢史朗	練馬区	父のよこ座る嬉しさかき氷	小川恵子	上毛町(福岡)
芒摘む母に出会いし帰り道	井田由紀	大分市	身勝手な振舞の無き蟻の列	小河匂文	大府市
夫の忌や吾のみに射す月あかり	市ヶ谷洋子	大分市	踊りの輪入ればたちまち別の貌	尾崎陽子	宇佐市
古里を夜汽車で過ぐる寒の月	伊東淳子	大分市	水口に朽ちたる御幣厄日過ぐ	小野澄子	上毛町(福岡)
ふるさとは今ももも色桃の花	糸永悦子	別府市	汗落ちて我が手のしわを凝視する	小野眞知子	宇佐市
拾はんとして落蟬に鳴かれけり	井上次雄	草津市	星祭水玉ゆるるワンピース	小野瑞季	由布市
秋灯下会話ひそかに続きをり	今村悦子	大分市	岩崖の松の迫り出す十三夜	尾平貴子	杵築市
ほつと月ある縁側の真正面	今村七栄	宇佐市	米びつは米で満たして今日の月	折田祐美子	滑川市
うなぎ供養少しはなれて網をうつ	岩崎和男	太田市	熊狩りの勢子らも犬も勇み立つ	貝田ひでを	八代市

子に見えて我に見えざる春の虹	垣花千春	仙台市	我もまた過客なりけり天の川	後藤美子	白杵市
夏草や風の行方を知らぬまま	賀来敦子	中津市	鈴虫が月と会話をするように	木幡忠文	足立区
地下鉄に葉を拾ふ冬怒涛	花月大師	板橋区	宵闇の灯の当たりたる寺の門	小林弥生	桑名市
待ち合わせ場所に人來ぬ原爆忌	景山典子	さぬき市	正論はつまらぬものよ暖炉燃ゆ	斉藤浩美	東海市
寒蟬鳴く砲台跡は無入島	柏木正則	東大阪市	きのふけふ葉擦れにわかや秋たちぬ	堺 久子	札幌市
牧牛の涎一筋萩の花	加藤久子	東海市	秋茜伝えたき事一つあり	榊原妙子	大分市
妹は小さいカップ氷水	金子歩美	東吾妻町(群馬)	庭畑の畦の間に間に濁り鮎	坂本真二	宇土市
秋簾外し磯の香磯の風	河野二三華	宇佐市	盆僧の草履脱けたる交差点	首藤恵子	別府市
待宵やまだ恋人と呼べぬひと	岸本恵美	大分市	くちなしの便り届きし朝は雨	菅尾雅江	沼津市
昭和の日糊を効かせし割烹着	北村隆子	高松市	ぴしぴしと燐寸の擦れて卒園す	杉山ひかり	日田市
尺八を聞き蜘蛛そろり行きにけり	貴田雄介	熊本市	熊よけの鈴が前行く夏木立	関谷初江	前橋市
山奥の里は夏炉に川魚	草野金子	名古屋市	連射式しゃぼん玉飛ぶ終戦日	高橋和美	豊後高田市
流星や鼻緒古りたる母の下駄	楠本シヲリ	西海市	真つ新たな朝がゆつくり蓮の池	竹下百合子	大分市
寝かす子に寝かされし宵合歡の花	楠本良子	西海市	万歩計外して尾瀬の夏はじめ	竹浪誠也	鶴田町(青森)
もう棲まぬ家の鬱蒼隠れ柚子	窪田ますみ	横浜市	水指は萩焼ときめ風炉支度	田長丸桂子	中津市
蝉時雨私の朝の始まりだ	黒木アースリー	中津市(高二)	汗一条母の遺骨を拾ひけり	田中龍太	佐々町(長崎)
卒業す写真の中の面皷顔	香西富美子	高松市	テント張る舳ひ結びや秋の山	茶園美由記	福岡市
赤信号点きつ放しの虫の闇	古寺周一	宇佐市	八月の国境金継ぎで埋める	千綿宏子	古賀市
星月夜手も繋げない君といふ	後藤明彦	宇佐市	待ち人の来れば日傘を閉ちにけり	塚本治彦	茅ヶ崎市

徽の軸より若沖の鶏叫ぶ	辻 基倫子	甲府市	秘めごとを蚩袋につぶやきぬ	永松悦子	宇佐市
山霧や湯宿に掛かる古提灯	堤 節子	別府市	図書館の高き天井菊日和	中山恵美子	上毛町(福岡)
箸置きに結びの草や月の宴	霍野廣由	上毛町(福岡)	秋祭父は屋号で呼ばれけり	長山香織	横浜市
鬼灯の土より赤をもらひけり	樋園和仁	別府市	侘しさの闇を紛らす虫の声	中矢泰之	横浜市
夕焼や明日あることをうたがはず	遠見百合子	津久見市	兵たりし日々は悪かと蟬が鳴く	野上 卓	世田谷区
水澄みて一枚岩を足の裏	徳永めぐみ	福岡市	耕すやアンモナイトの埋まる丘	羽住博之	江戸川区
敗戦忌路地に脱け道なかりけり	富川元女	大分市	秋立つや色鉛筆の百削る	浜田淳江	高槻市
古本の嵩に躓く夜長かな	富田 忍	東大阪市	噴水の五段活用まだ未然	林 正子	朝倉市
麦秋や宇佐の疎水の水えくぼ	富田湖人	津久見市	拓本の漢詩解説二月尽	原田伸介	杉並区
清流に弾む子の声夏旺ん	内藤節子	上毛町(福岡)	祖母の見た終戦の夏空の色	原田善二郎	宇佐市
画仙紙の墨色淡し余花の雨	中川富美子	大阪市	麦秋やはるか雲おく豊後富士	飯田勢津子	上毛町(福岡)
右の手に輪ゴムの跡や盆用意	中川靖子	東大阪市	かなぶんの逆上がりして飛び立ちぬ	樋田征子	宇佐市
陽当たりて木犀香る京の路地	中川雄策	大磯町(神奈川)	気か付けば今朝は蟬の声聞こえない	平田崇英	宇佐市
両の掌につつむ宝や菖蓮	中島すみ	出雲市	河童忌やマロニエの葉に雨の打つ	深草秀昭	大分市
雨に宿る蚩袋のうすあかり	中島幸子	高崎市	蟪蛄の反身のままに枯れにけり	福田仁子	横浜市
露草や絵にも筆を描き足せり	永田久美子	大分市	扇風機の前にどつかと母おはす	福山レイ子	東大阪市
天高しトタン鳴らして木の実降る	永田健志	熊本市	朝まだき玻璃をふるはす草ひばり	藤井如月	井原市
水の輪を重ねて恋の水すまし	中野清彦	伊豆市	おそらくは腕がれぬ柿の赤さかな	藤崎由希子	宗像市
稲光うつつに戻る母の刻	永野ひとみ	北九州市	反戦歌流るる広場花ユッカ	藤目ひとみ	高松市

木の椀に残る土の香とろる飯	藤本正吾	上毛町(福岡)	芽吹く日の音がするなり種袋	安枝俊子	上毛町(福岡)
パラシュート蜘蛛は戦後の糸を吐き	船山洋一	岩沼市	落雁の声頻りなる湖の暮	安田薫子	大田原市
カルピスに昔ありけり夏の雲	古川みつよ	津久見市	魏志倭人通ひし岬いわし雲	山内利男	福知山市
手の平を反す踊りや夕明り	古瀬道子	横浜市	朽ち果て蟻に引かるる午後緩し	山島美紀	伊賀市
蛍飛ぶ絵本売り場の低き棚	穂苅真泉	安曇野市	夏炬とも別れ踏み出す夜明け前	山田雅弘	岩倉市
汗流しとんぼと歩く山の道	本間なつめ	松戸市(高三)	時流れ旅愁の文の冬薔薇	山辺さちこ	苫小牧市
父の日の父の顔から出る手足	牧野桂一	大分市	月見草探して朝のまわり道	山村康子	大分市
鯛焼きを両ポケットにペダル漕ぎ	増永美香	北九州市	教会のステンドグラス夏の朝	山本 亨	前橋市
活けられて野の風を呼ぶ吾亦紅	松田なごみ	千葉市	新米によるこびの手を溺れさす	山本千代子	練馬区
柚子の香の立ちのぼりたる風の音	松本己代子	中津市	空籠にとまる秋津や御勝山	山本裕之	大阪市
登高や利一の丘でにぎりめし	松本公節	宇佐市	獄窓に切りとられたる冬の海	楊 明枳	甲府市
軍歌聞こゆ男やもめの寒厨	水上貞子	越前市	さんま焼き焼いた香りが秋を呼ぶ	横川莉菜	中津市(高二)
つくつくし我家にありし風の道	水崎ハル子	福岡市	ででむしにででむし進路ゆづりけり	横田青天子	今治市
故郷より戻る晩夏の四畳半	光安弘子	糟屋町(福岡)	見上げれば雪の妖精舞い降りる	吉井葵音	中津市(高二)
ふるさとの訛飛び交ふ花見会	宮野和子	上毛町(福岡)	裏木戸に水の匂ひの青田風	吉浦百合子	周南市
山水は田水となりて桐の花	森 篤	西海市	新涼と共に訪問医師来たる	吉賀京子	臼杵市
初鴉宇佐八幡の勅使道	矢川美枝子	大分市	語部の声のとき澄む原爆忌	吉原多佳子	岡山市
山百合の笑顔の如く開きけり	矢川満信	大分市	天高し快気祝ひの住所録	脇坂さゆり	新宮町(福岡)
春立つや鬼への豆が残る庭	薬師寺武信	津久見市	あたたかや木工用のビスを買ひ	和田 康	奈良市

【中学生以下の部・佳作（小学生）】二十二句

青空をプールみたいにおよいでいる 安部直樹 安心院小五年

言葉とは人きずつける原ばくき 今川康弘 大在小四年（大分市）

砂浜に楽しく響くスイカ割り 上田心優 宇佐小六年

あついなつエレベーターでふじをみる 梅原翠仁 日隈小二年（日田市）

ともだちとぼったりあつたなつまつり 江藤杏奈 八幡小三年

セミとりをまいにちやつてもうあきた 江藤誠真 駅館小一年

暁の紺朝顔と星一つ 亀井玲奈 豊川小四年

終戦日国と国とが仲直り 小浜來喜 大在小四年（大分市）

墓参り家族総出で屋形船 坂本野乃華 宇佐小六年

つゆの日にかさをわすれてもどりゆく 新川愛葉 朝日小五年（日田市）

スイカわりわって食べるの楽しみだ 高野心陽 祖峰小三年（竹田市）

台風でもお仕事がんばる父のすがた 田口恭平 宇佐小五年

うみたまごすずしエイの目かわいらし 田邊ちひろ 駅館小二年

はじめてのわくわくどきどきなつやすみ 谷 花凜 四日市北小一年

雨の日はどこにかくれる庭のセミ 千葉あおば 野寺小四年（新座市）

泣きながら出る映画館夏休み 永松真夕 大在小五年（大分市）

かぶと虫どこだどこだとさがすひと 中村菜花 安心院小四年

夏終わり線香花火のさみしさよ 羽賀莉央那 柳ヶ浦小五年

夏祭りなれないゆかたに身を包む 牧野葉月 豊川小四年

おぼんの日テレビをつけるとこわい話 三ヶ尻みらい 柳ヶ浦小五年

夏休みプールがどれも小さいな 矢島怜旺 大在小四年（大分市）

やきいもだすぐに手を出しやけどする 吉用 栞 四日市北小五年

【中学生以下の部・佳作（中学生）】二十六句

影落ちて見渡す空に回る鷺 東 貫太 日出中三年（日出町）

夏休み遠くの町に旅に行く 足立悠樹 西部中二年

外に出て打ち水してとたのまれた 有永慶悟 駅川中二年

夏野菜しつかり育ち元気だな 小田聖菜 西部中一年

くつしたの日焼けのあとが思い出だ 小野凌佑 院内中一年

水田に満月煌々蛙なく 賀来杏衣 福岡教育大附属小倉中二年（宇佐市）

炎昼に「塩分チャージ」がしみわたる 加藤朋佳 高田中三年（豊後高田市）

夕焼けに満たされてる夏の太陽 北殿萌々 本耶馬溪中一年（中津市）

夕立の晴れて青空虹の橋 熊埜御堂萌衣 北部中二年

かき氷ハイと私にしようが 黒岩文音 北部中二年

つゆの時期あじさい咲くよかたつむり 桑原未羽 本耶馬溪中一年（中津市）

新緑や舞台は高き清水寺 河野 葵 安岐中三年（国東市）

短命を存分に生きるセミの君 近藤 匠 日出中三年（日出町）

この夏に命とだえたひいばあちゃん 酒井一真 北部中二年

注文はアイスコーヒーやけた肌 須子知美 西部中二年

炎天下水面きらめくプールかな 高橋 諒 宇佐中二年

桜の葉風に揺られて旅へゆく 田坂太輝 日出中三年（日出町）

夏休み何か始めてみたくなる 谷川蒼士 駅川中三年

夏の夜ぼくの星座を見つけ出す 谷口諒成 西部中三年

新学期親しき友は別クラス 中のぞみ 駅川中二年

寄りそえば君を照らしたせんこう花火 永松里菜 院内中三年

久々の祖父母に会う帰省の日 松木愛莉 宇佐中二年

七月のあなたと行った夏まつり 三浦由愛 北部中二年

夏祭りあなたがいない違和感が 水之江柚輝 駅川中二年

帰り道西日が差す中立ち話 安長結菜 宇佐中三年

ひんやりと暑さを飛ばす氷水 山香美月 宇佐中一年

編集・発行 宇佐市民図書館 令和 5(2023)年 12 月 9 日

〒879-0453 大分県宇佐市上田 1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

URL.<http://www.usa-public-library.jp/>

